

## 「国語科教育法Ⅳ」の検討

国語科教育講座 中西 淳

### I 授業の概要

本授業の目的と到達目標は以下の通りである。

＜授業の目的＞

○中学校・高等学校国語科教育の問題やその解決方法を探究し、国語科の授業を改善していくための授業を構想することができる。

＜授業の到達目標＞

○他者と協同しながら国語科の授業を構想することができる。○国語科教育に関する著書や論文を的確に読むことができる。○国語科教育における問題を把握し、それを改善するための手だてを考えることができる。

授業展開は以下の通りである。これを15コマを使って展開した。

1. 国語科学習指導の現状と課題
2. 国語科実践研究の方法
3. 国語科学習指導実践の構想
  - (1) 話すこと・聞くことの学習指導①
  - (2) 書くことの学習指導①
  - (3) 読むことの学習指導  
— 文学的文章①—
  - (4) 読むことの学習指導  
— 論理的文章①—
  - (5) 伝統的言語文化と国語の特質に関する事項の学習指導①
  - (6) 話すこと・聞くことの学習指導②
  - (7) 書くことの学習指導②
  - (8) 読むことの学習指導  
— 文学的文章②—
  - (9) 読むことの学習指導  
— 論理的文章②—
  - (10) 伝統的言語文化と国語の特質に関する事項の学習指導②

#### 4. まとめ

### II 授業の工夫点とその様相

授業の工夫点は次の通りである。

- (1) 問題意識の喚起

「国語科学習指導の現状と課題」において、教育実習を振り返りながら（教育実習を行っていない者は自分が受けた中学校・高等学校の国語の授業を振り返りながら）、国語教育の問題点を考えさせた。自分で考えたい問題を具体的に捉えさせるためである。

#### (2) 学習共同体の構成

それらの問題解決の方法をグループを形成し探らせた。近年の学校現場では、共同で研究を行っていくことが多くなっている。それに対応できるようにするためである。

#### (3) 学習記録の作成

学習内容を確かにする、そして「聞く力」を育てるということを念頭に、学習記録を作成させた。その際、本学における E ラーニングシステム moodle を活用した。

#### (4) 全体評価と個人評価

レポートは「グループ」と「個人」で提出させた。以前アンケートをとった際に、個人の評価をきちんとしてほしいという要望があったからである。

#### (5) 発表協議での支援

学校現場もそうであるが、授業協議の展開には多くの困難が伴う。協議する力の育成も念頭に、展開の仕方、質問の仕方等に関する支援も具体的に行った。

最終的な各グループの発表テーマは次のようになった。

- 主体的に話し合う力を育てるために一話し合いの聞く力に着目して—
  - 書くことの学習指導—短歌指導・教育実習の反省から—
  - 「支配的な読み」からの脱却—教材をテキストとして読む—
  - クリティカル・リーディングの姿勢を育成するための学習指導の工夫
  - 言語感覚を豊かにする授業の構想
- 授業における発表は質の高いものであつ

た。また協議も活発であった。さらに、レポートも全体的に質の高いものであった。十分読みこなしてとはいえないが、毎回のよう参考文献を用いながら自分の考えを深めようとしている者が見られた。以下はこの授業で学んだことをまとめたレポートの一部である。「発表に向けての取り組みのように先行研究などに触れることや、教科用図書の教材を比較・検討し、選択することはもちろん、学習者の興味を引く教材を自ら見つけ、教材研究をし、授業を構想するという創造的な姿勢も持ち合わせて、多様な授業を提案できるようにしていきたい。」

### Ⅲ アンケート調査

今回は授業にはじめて E ラーニングシステム moodle を取り入れた。最後の時間に、それに関するアンケートを次の2点についてとった。① moodle を使用し、自分の考えを述べそれを共有することの効果と欠点について、② moodle の使い方について。その記述の一部を以下にあげる。

#### ○効果について

「普段、レポートを書くことはあっても他人のを読むことはない。いつも誰がどんな考えを持っていてどのように書き表すのか気になっていたもので、今回の課題で見ることができたのは様々な視点を得られた点でとてもよかったと思う。」「他の人の考えを見ることができると、自分の考えを深めることにつながった。また同じことを考えていても、提示する方法が違っているものもあり、広く深くしていくことができたので、紙よりも Moodle の方がいいと思う。」「非常に刺激的で良かった。自分の同じものを持った人が全く別の観点を持った人の存在は、自分を相対化し捉えることに役立った。単純に知的な思考意欲や学習の意欲の向上に効果があった。ぜひ来年以降もこの形式にして欲しいと思う。」「とてもよいシステムだと思った。人の考えを読むことができて、自分の考えと比較することができ考えが深まった。また、自分たちの発表後は Moodle からの他者の意見を集め、改善に生かすことができた。質疑応答の場で発言できなかった人の意見を表す場として最適だと感じた。」「他者の文章を見ることが新しい視点を得たり、深

まりを得たりすることができたのでよかった。」「一つのテーマについて、色々な人の色々な考え方を知ることができ本当に勉強になった。文章の構成など、『うまいなあ』と思わせるものが時折あってとても参考になった。毎回、投稿されたものを読むのが楽しみだった。」「自分では気づかなかった別の視点を知ることができて良かった。また言いたいことはあるがそれをどう表現したらいいのかわからないとき、他の人のものを見ることで自分の中の考えを整理することができる。」「Moodle でレポートを提出し他の人のレポートが読めるので、参考にできて良かったです。例えば今回レベルの高い研究が多く、なかなか理解できないものがありましたが、他の人のレポートを見て、『ああ、そういうことだったんだ』と納得できたものもありました。」「私は Moodle のシステムはよかったと思っています。」

#### ○欠点について

「欠点としては、自分の意見も見られているので、良くも悪くもプレッシャーのような不安な気持ちを持ってしまうことでした。」「分量が多いので見るのも書くのもしんどくなってあまり活用できませんでした。」「Moodle の期限は最初から決めておいてくれると良かったです。」

#### ○使い方について

「受講者全員がトピックを立てるといちいちフォーラムの画面に戻って他の人を見なくてはいけないので少し手間でした。トピックは先生が立てるなどし、同じディスカッショントピックで、1つのフォーラムの中で色々な人の考えが見れた方が意見交換も活発にできるのではないかと思います。」

ほとんどの者が moodle の効果を指摘していた。また読むのが楽しみだという者も見られた。レポートにもその効果が見うけられ、moodle を導入したことはよかったと考える。

### Ⅳ まとめ

来年度も今回と同様の展開を行っていくことが適切と考える。ただし、moodle の使い方には問題が残った。入力期限を最初から設ける、トピックの立て方の工夫をするなど、授業改善を図っていきたい。